

2013年8月14日

| | |
|---------------|---------|
| 石川県知事 | 谷本 正憲 殿 |
| 土木部 | 部長 殿 |
| 公園緑地課 | 課長 殿 |
| 都市計画課 | 課長 殿 |
| 健康福祉部 | 部長 殿 |
| 厚生政策課（バリアフリー） | 課長 殿 |
| 長寿社会課（老人福祉） | 課長 殿 |
| 少子化対策監室、 | 室長 殿 |
| 環境部 | 部長 殿 |
| 商工労働部 | 部長 殿 |
| 観光戦略推進部 | 部長 殿 |

「中央公園の緑を守る会」代表 熊野 盛夫
金沢市下近江町 68 武蔵ビル地下メロポチ内
電話・ファックス 076-234-5556

中央公園再整備「舗装計画」の問題点に関する公開質問状

猛暑の中ですが、谷本知事以下皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私たち「中央公園の緑を守る会」は県による中央公園改修再整備計画について、一貫して「緑の保全を最優先にした再整備」を訴え、説明会の開催を求めてきました。また、同様の趣旨で石川県議会に対して請願と陳情書84通が寄せられたことはご承知のことと存じます。この県民の当然の要請に対して県は納得のいく説明もないまま、アスファルト化を強硬に押し進めようとしています。12000余筆の署名をも無視したこのような住民不在のやり方は、決して許されるものではありません。

アスファルトは夏場の気温上昇による熱中症等、様々のリスクが高いことが私たちの調査によって明らかになりました。私たちは、歴史と風格があり、県民の憩う中央公園を守るため、アスファルト舗装に対しては一貫して反対の声を上げておりますが、改めて強く反対し、計画の変更を求めます。

私たちは、特に透水アスファルト舗装の問題に絞り、ここに公開質問状を提出いたします。また、私たちの要望を「要望事項」としてまとめました。

質問や要望にはまず、最高責任者たる知事からお答えいただくとともに、直接・間接関係のある部局・担当課からは、主体性ある回答をお願いします。関係部署で横の連携をとり、8月28日までに書面でご回答下さい。なお、回答は報道機関や「守る会」HPなどで公表させていただきます。誠意ある対応を期待しております。

【I】経過に対する質問

質問（1）「透水アスファルト舗装」の問題点についてどのように受け止めていますか？

- ① 環境に対する影響をどのように認識していますか？
- ② 夏場の温度上昇対策を検討されましたか？その結果はどうなっていますか？
- ③ 気温も湿度も高い金沢で、中央部のアスファルト舗装化は夏場に機能するのでしょうか？具体的な問題点ごとにお答えください。

具体的な問題点として

- 舗装面の温度は著しく高くなります。→ 酷暑の期間はとても利用できません。ベビーカー・子ども・高齢者・障がい者であればなおさらです。
 - 近年は気温上昇傾向にあり、熱中症患者の増加が危惧されます。
 - アスファルトは蓄熱効果のため、夜間の温度低下が少なくなります。
 - アスファルト化すれば、夏場は使用が著しく限定された「ただの広場」になってしまいます。
 - 夏場のイベント開催に大きな不利益を生じます。
- ※ 先に中央公園での実測値（2013年7月22日測定）を提示してありますので参照して下さい。

質問（2）イベント開催におけるテント設営に関し、近年増加傾向にある突風対策を検討されましたか？樹木伐採により、公園内部の突風発生の可能性は高くなると考えられます。

- ① 突風や竜巻が全国的に増加し、甚大な被害が発生していますが検討されましたか？（平成23年度15件、平成24年度28件／出典：気象庁データベース）。
- ② 下記の事例を御存じですか。また、対策はどうなっていますか？

- 今回の再整備に対する（株）ケイ・シー・エス（石川県政記念しいのき迎賓館指定管理者）への聞き取り調査（平成24年6月6日）では、「舗装の広場は杭を打てないので風対策が課題となる」という指摘がなされています。

質問（3）冬場の凍結対策はどうなっていますか？

- ① 凍結によって、朝夕の通勤・通学時間帯の歩行の危険性を検討されましたが？薄氷でも滑って歩けなくなるのは、石川県民なら実体験として知っています。

質問（4）バリアフリーからユニバーサルデザインへの切り替えを検討しましたか？

- ① 再整備計画ではバリアフリー対策がとられていると喧伝されています。しかしその実態は定かではありません。また、バリアフリーとなっている既存の施設や設備でも「中途半端で使いにくい」という声が上がっています。もちろん、車椅子使用には「かたい路面」「広い園路」のほうがよいでしょう。しかし、その部分だけを解決すればいいのでしょうか。車椅子を押す方々は？ 車椅子から降

りたい方は？ 盲導犬使用者は？ いろいろな疑問が浮かびます。

十数年前から障壁を取り除くバリアフリーから一歩進んだ、「誰もが使いやすいユニバーサルデザイン」の公園をめざす動きがありますが、検討されましたか？

② たとえば、次のような疑問や懸念があります。 これらを検討されましたか？

- 園路からスムーズに障害者が緑地で憩える設計になっているのか。
→ 園路と緑地の境界に低木や縁石等があると、車椅子使用者や視覚障害者は緑地に入っていくにくくなります。
- 夏場、車椅子使用者は、舗装面の照り返しの影響を受けやすい。
- 転倒時に大きなケガをする危険性が高くなる。
- 緑を楽しみ、緑と触れあえる公園を望んでいる車椅子使用者や視覚障害者等も非常に多い。

質問（5）保育環境の悪化について検討されましたか？

① アスファルト舗装に関しては近隣幼稚園や保育園から反対の声があがっています。

公園は子どものためだけにあるのではないことは承知しています。しかし、「子どもたちが日常的に使う」公園であることも、紛れもない事実です。

市街地で、あれだけ伸び伸びと子どもたちが自由に遊べる空間があるでしょうか。

その芝生広場がなくなることの影響についてどのような検討をされましたか？

連日、赤、黄、白色の帽子をかぶった園児たちが列を作ってやってきます。そこは園内の運動場とは別の世界で、大きな声をあげ、思いっきり走りまわっても大丈夫です。

たとえ転んでも、土や芝生の上なら大きなケガにはなりません。むしろ、転ぶ経験を繰り返しながら、はしゃぎすぎや無茶をしたりしてはいけないこと、木の根がある所は危ないことなどを学びます。自分が転んで痛ければ、お友だちもケガをすれば痛いことがわかってきます。

また、小学生たちは休日に家族連れで、あるいは大人も子ども一緒に集うイベントで思いっきりエネルギーを発散していました。子どもにとってそれがどれほど大切なことでしょう。綱引き、缶蹴り、追いかっこ等年齢差があれば大きな子は小さな子をいたわることを身につけます。知らない人たちと交流する術や、自分だけのわがままではいけないことを学びます。これらは、かつての自分の姿であり、子や孫の姿なのではないでしょうか？

わざわざ郊外まで出かけなくても、都心部にこれだけ豊かな公園があるのです。

それを年数回のイベント名目で奪ってしまうことをどのように検討されましたか？

② 石川県は中央公園の幼稚園／保育園の利用状況を調査をしていますか？

- 中央公園を利用している周辺の園に問い合わせると、2日に1回は利用する。
- 1回に20～30人の園児が利用する。
- 利用時間は10時～11時くらい。お弁当を食べることもある。
- 同じ時間帯に複数の園が来ることもある。小中学生の写生会や社会体験にも合う。

- ③ 5月5日「LOVE CHILD」のDVDを先にお渡ししました。ご覧になっていかがでしたか？
親子が緑に包まれた環境で遊ぶことの意義が社会的に高まっています。
最近父親の子育てへの積極的な関わりも増え、映像からも見てわかると思われます。
このイベントでは、公園の巨木を利用した遊び場の創造など、子どもの冒険心と好奇心を呼び覚まし、貴重な体験としていつまでも記憶に残ったはずです。そうした想像力を育むダイナミックな遊びができる恵まれた環境を付加価値とした都市公園として活かしてください。

- ④ 次のような疑問や懸念について検討されましたか？

- 夏場、芝生地でも木陰がなければ使用は厳しい。
- 夏場、ベビーカーも車椅子利用者同様、照り返しの影響をもろに受け、熱中症の危険が増す。
- 現行の改修計画で、幼稚園／保育園児童の遊び場を確保できるのか。
 - 大勢の園児／児童が遊べる緑地は、四高記念館裏に限定されてしまう。
 - 一般市民が休憩している場合、園児と市民が競合してしまうのでは？
 - 夏場に複数の園や、小中学生の課外活動がぶつかったら？
- 子ども中心のイベントが開催できなくなる（なぜ大規模イベント開催者の声だけ聴取したのか）
- 休日に親子連れで楽しめる空間ではなくなる。5月5日「LOVE CHILD」のDVDを先にお渡ししました。ご覧になっていかがでしたか？

質問（6）日常的な憩い空間の減少についてどのような検討されましたか？

- ① 公園には多様な機能が求められます。「イベント」に特化した公園のあり方は、市民のニーズに応じていると考えますか？
- ② 21世紀のあるべき環境政策に則っていますか？逆行していませんか？

- 1年365日——街の賑わいあつての公園整備であるべきです。これまで利用者が利用しにくくなるのでは困ります。公園は大人も子どもも、健常者も障がい者も、イベントがある時もない時も等しく利用するものです。市民に愛される公園であることこそ、金沢市の景観にふさわしいのではないのでしょうか？また、そういう公園であることは、45年という中央公園の歴史や、その歳月のあいだに中央公園と共に生き、あるいは訪れた人々への義務であるとも思います。
- 金沢市は21世紀美術館という全国に誇りうる施設を建設しました。金沢市の21世紀美術館では、芝生と通路の段差解消に成功しています。手本とすべきだと思いますがいかがですか？

【Ⅱ】改善可能な検討材料の提案

今回の改修計画は冬場のイベント対策に主眼が置かれています。アスファルト舗装化により、

夏場の誘客は激減すると思われます。大規模イベントに舗装が必須なら、次の提案をします。

- ① 隣接するしいのき迎賓館地下駐車場上を「大規模イベント用」「ステージ用」の舗装広場として活用することを検討して下さい。

- 現在、しいのき迎賓館では地下駐車場工事が進行中で、完成後は地上のコンクリート部分を芝生に整備することになっています。この舗装部分をそのまま残し、多少手を加えて外観等の整備をすれば、立派なイベント用の舗装広場になり、すべてにおいて無駄がなくなります。

- ② 中央公園のぬかるみ対策として、地面を芝生等の緑で整備することを検討して下さい。

- 排水しやすい土壌に変える。
→ 現在の暗渠工事によってこれまでとは格段に排水がよくなり、土壌を工夫すればすみます。
- 市民みんなで芝生を植え、区割りして順番に養生期間を設ける。
→ 香川県高松市では、この方法で公園を芝生に変え、養生期間の立ち入り禁止にも市民から不満の声が出なくなりました。「みんなの公園」の意識が芽生えたからです。
- 芝生整備部分には、車椅子などの走行ができるように、十字形やS字形の舗装園路を整備する。
→ 芝生を車椅子から楽しみたい、という車椅子使用者の声に応えることができます。
ベビーカーも通りやすくなります。

【Ⅲ】石川県の行政及び県政運営への要望事項

谷本知事は6月28日の本会議で川議員の説明会開催を求める質疑の中で、手続き的に問題ないことを強調されました。しかし、以下の問題があったことが明確になっています。

- (1) 石川県の議会運営は議会基本条例に反して、恣意的な運営を行いました。

- ① 84通もの陳情書を6項目の箇条書きに要約し議長にのみ渡し、議員に写しを配布していません。
- ② 川議員が紹介議員となった請願書は、委員会審議の場から傍聴者を締め出して審議を強行しました。その問題点を指摘すると、「慣例」であり、「意思形成過程」である、という驚くべき釈明を行いました。
- ③ ①、②の議会基本条例に違反する恣意的な運営での採択は無効です。
こうした悪弊を廃止し、市民へのガラス張り＝可視化をはかって下さい。
よって、県民に疑惑をもたれない公開の場で堂々と審議し直して下さい。

- (2) 今回の改修計画の主管は公園緑地課です。

- ① 関係する部局があまたあるにもかかわらず、横断的な検討の場が持たれたとは到底思われません。それは、経過の中での指摘した問題点は、各部局が主体性を発揮していれば解決積みのことばかりだからです。主管の景観政策課は他の関係する部局に対してどのように働きかけをしてきましたか。
- ② 県の構想の原点にあるニューヨークのセントラルパークでは、冬季間は芝生の養生期

間をしっかりと取り、イベントは屋根やアスファルト舗装された場所で行う、というすみ分けをしています。また、行政と住民との協働作業が行き届いています。石川県もそういう方向を目指せば、アスファルト化はしなくてすむのではありませんか。

- (3) 健康福祉部、厚生政策課、長寿社会課、少子化対策監室、環境部などは自然環境、協働、エコ、子育て、福祉などをキーワードとする提言があつてしかるべきですが、どのようにかかわってきましたか。環境アセスメント調査をされましたか。
- (4) 商工労働部、観光戦略推進部などの関係部局は「来園者数の増減に多大な関心を持ち、どのようにかかわってきましたか。具体的には、アスファルト舗装化が来園者数にどのような影響を及ぼすか検討されましたか。地元県民は夏場の温度上昇を敬遠し、観光客は無機質で情緒がないからとかえって減少するのではないのでしょうか。季節毎の実績と今後の予測数も明らかにしてください。
- (5) “公園緑地課”任せにせず、各部局・各課の専門性を発揮すべきでした。ここには、石川県の縦割り行政の欠陥が全面的に露呈しています。この事実を真摯に捉え返し、システムの欠陥を改めて下さい。
- (6) 金沢市「用水みちすじ部会」の黒川部会長は、「県は（今後も）丁寧に説明する必要があるのではないか」指摘しています。石川県はこの指摘に対してどのように受け止め、対処していくのですか？
- (7) 入札の行われていない現時点で最大かつ喫緊の課題として取り組んで下さい。

【IV】 今回の中央公園再整備計画は、「広坂通り・中央公園再整備計画PI委員会」及び、石川県議会の承認を経て県民の声を反映した計画として進めていると、県は言っています。

しかし実際には、子育て、福祉、景観、都市計画など、それぞれの専門課が総合的に検討せずに進められ、しかも、PI委員会の決議とは異なる計画に変更されています。そして、私たちの声は無視され続けています。これで民主的に県民の声を反映した計画と言えるのでしょうか？

全国で「協働」や「住民参加」が普通に取り入れられている時代なのに、石川県の進め方は、時代に逆行していると言わざるを得ません。PIとは、Public Involvement。まさに住民参加で始まったはずなのに、その理念はどこへ行ったのか、考えをお聞かせください。

資料として、「札幌市」と「福井市」の新聞記事と、「高松市」HPの抜粋、NHKのニューヨーク・セントラルパークの番組を添付いたします。

以上

※ お答えにあたっては、先にお渡しした資料を参考の上、具体的に文書でお願いします。